

淡路宗務支所報「海響」

〔第22号〕

令和4年(2022)3月15日

題字・弘法大師筆

発行所

高野山真言宗淡路宗務支所

支所長 鈴木 瞭 導

兵庫県洲本市五色町都志1344

多聞寺中 TEL0799(33)0736

お大師さまのことば

禿なる樹 定んで

禿なるに非ず

春に遭うときは

すなわち

栄え華咲く

『秘蔵宝鑑』

冬枯れの樹木はいつまでも枯れてはいない。春になれば花が咲き、枝葉が伸びてくる。



宗祖弘法大師
御誕生1250年記念大法会

令和5年5月14日(日)〜7月9日(日)
の期間、高野山におきましてお大師さま御誕生1250年をお祝いする法会が行われます。
全国の伝道団も交代で法会を行います。我が第六地域伝道団(兵庫地区)担当は6月4日(日)であり法会に合わせまして「稚児行列」を行います。
対象年齢は2歳〜12歳となっております。現在、法会の時刻内容等については調整中です。近々ましたら檀那寺よりご案内いたします。
お大師さまとのご縁を結び、お子様が健康で賢く育ちますようご参加をお願い致します。日程は下記の通りです。

華道高野山

生ける人の心が
花の表情です

淡路寺族婦人会

お問い合わせ
洲本市五色町都志1344 浄土寺内
TEL0799(33)0736 FAX0799(33)0736

5月14日(日) 9:00	開白法会(山内塔頭寺院 於 灯籠堂)
5月21日(日)	第三地域伝道団報恩法会(東海)
5月28日(日)	第九地域伝道団報恩法会(九州)
6月4日(日)	第一地域伝道団報恩法会(北海道)
6月11日(日)	第八地域伝道団報恩法会(四国)
6月18日(日)	第六地域伝道団報恩法会(兵庫)
6月25日(日)	第七地域伝道団報恩法会(中国)
7月2日(日)	第五地域伝道団報恩法会(近畿)
7月9日(日)	第二地域伝道団報恩法会(関東)
7月16日(日)	第四地域伝道団報恩法会(北陸)
7月23日(日)	結願法会(山内塔頭寺院)

御宝号念誦運動への浄財

本山総額(累計)
一、一三四七〇、一九二八円

淡路志納分(累計)
二八、三三二、八〇三円

御写経奉納巻数
本山総計(累計)
二、六八七、八九五巻

淡路奉納分(累計)
五、五九二巻

担当となつて
おります。来
年度こそコ
ナ禍が沈静化
し無事に開催出来ま
うにと祈ります。開催時
期が近づきましたらご案
内いたします。

十一月には高野山研修
を行つております。内容
は授戒、阿字観や法話聴
講などです。会員の皆さ
まからは大変好評を得て
いる研修です。

令和三年度
淡路宗務支所
小史

(敬称略)

支所下寺院の慶事をご報告
申し上げます。
心よりお祝い申し上げます。

慶 事

〔教化功労賞受賞〕
令和三年十二月七日
浦 法導寺 竹原 祐 乗

〔権大僧正昇補〕
令和三年十二月七日
下堺 三寶院 樹下 俊 澄

〔寺族婦人五十年褒賞〕
令和二年 四月二十三日
湊 智積寺 寺内 碗 子

令和二年 四月二十三日
市 寶積寺 上田 隆 子

令和三年 四月二十六日
賀集 護國寺 三富 清 子

哀 悼	慈眼寺名誉住職 南岳 正剛 令和三年八月三十一日遷化
	福満寺名誉住職 國本 雲啓 令和三年 十月 五日遷化
	千光寺住職 岡本 宜照 令和三年十一月十五日遷化
新住職	池田 正恵 〔社 家 寛住寺・正〕 令和三年五月十日
	塩生 憲秀 〔賀 集 南邊寺・正〕 令和三年十一月一日
	鈴木 瞭導 〔都 志 普門寺・特任〕 令和三年十一月八日
	岡崎 哲英 〔上内膳 千光寺・正〕 令和三年十一月十五日
檀信徒協議会理事	一教区 北浦 義久 三教区 寺西 一夫 四教区 坂本 敏男 五教区 山本 彰 六教区 永田 秀一 七教区 岸本 敏彦 七教区 池添 忠義 八教区 梶 友明 八教区 鳥井 盛男
参与会淡路選出評議員	一教区 清水 邦樹 三教区 寺西 一夫 四教区 森 衣代 五教区 橋詰 恭介 七教区 山崎 恭利 七教区 池尻 明人 八教区 坂本 勝利 八教区 松本 静雄 八教区 谷口 啓一 八教区 榎本 晃明 八教区 直惣

高野山真言宗淡路宗務支所	洲本市五色町都志一三四四 多聞寺中 TEL〇七九九(三三)〇七三六 FAX〇七九九(三三)一四二九
淡路宗務支所 事務所	洲本市五色町都志原下六九三・一 西泉寺中 TEL〇七九九(三三)〇六九三 FAX〇七九九(三三)一七〇〇
支所長	鈴木 瞭導
副 長	三宅 一弘
〔会計課〕	富山 仁彦
〔教務課〕	富山 寛照
〔講社課〕	佐竹 清志
〔弁天総長〕	湯口 悦規
〔弁天会計〕	和 田 光永
自治布教団団長	笹津 寛照
副団長	堀部 俊晴
総 務	長谷川 惇也
金剛講 総 務	佐竹 清志
金剛講 庶 務	森 大誠
青年教師会会長	岡崎 哲秀
寺族婦人会会長	和田 隆子
代議員会	議長 八教区 瀬尾 弘澄 副議長 五教区 山本 泰三 一教区 若林 義導 二教区 野崎 康弘 三教区 河野 真康 四教区 林 泰真 五教区 高見 伸樹 六教区 林 哲寛 七教区 高見 伸樹 八教区 高見 伸樹
書記	岡崎 哲英 南岳 真行
高野山真言宗宗会議員	南岳 利英
高野山真言宗青年教師会	堀部 泰博
理 事	

『シキビについて』

お墓や仏壇によくお供える櫛ですが、漢字では櫛と書き、淡路島ではシキビと呼ばれており、民俗学の先生のお話では京都ではハナと言います。

春から夏にかけて、わさび色の細長い小さな花卉をつける櫛は、山に分け入って採取していたのであろうと考えられますが、現在では容易にスパーの店頭で紳・荒神松と同様に手に入れることができます。夏ともなると、呆気ないほど葉がバラバラと散るのが櫛の特徴でもあります。

南あわじ市の福良地区では、漁師町という土地柄かもしれませんが、早朝から、毎日墓参りをされている方も多いようで、当然のことながら、墓の櫛は、いつも青々としているのです。

ところで、『法華義疏』には「櫛とは形は白檀に似て香氣あり」とあります。また『真俗仏事編』によりますと、インドから中国に渡ったものを唐の鑑真が日本にもたらした、と伝えられています。その形が龍が住む池に咲くという青蓮華に似ているために、仏前に供えるようになったといわれています。

『今昔物語集』に注連縄を張りめぐらせるということは、櫛と同様の役割を果たすといえます。つまり本来は、櫛も櫛も同様に祭場を清浄に保つための働きがあった上で、神霊の依代であるともいえます。また、櫛の葉と樹皮を粉にすることで、身を清めるお香がつくられています。さまざまな仏教行事において櫛は神聖なものとして使われています。

『春に遭うときは すなわち榮え華咲く』



高野山真言宗管長
総本山金剛峯寺座主

大僧正 葛西 光義

昨年、開催予定と伺って
檀信徒大会開催について、
支所内の御住職様方はじめ、
檀信徒の皆様にお会いし親
しくご挨拶を申し上げるべ
く楽しみにしておりました
が、新型コロナウイルス感
染症の影響により、主催さ
れる役員各位の安全安心へ
の配慮により中止する旨、
連絡を頂きました。大会の
開催計画に携わっておられ
た役員の皆様も、又、開催
を心待ちにされていたであ
ろう檀信徒の皆様の心中を
お察しいたします。そして
同時に老納にとりましても
同じ思いでありました。

今を生きる私達は、未曾
有の大災害を幾度となく経
験し、更にこの未知のウイ
ルスに翻弄されながらも、
直向きに日々生活しており
ます。

この感染症によりその尊
い命を亡くされた多くの
方々に 心よりのお悔やみ
を申し上げますと共に、
日々不安なお気持ちでの生
活をしいられ、社会的、経
済的にも影響を受けられ大
変な思いでお暮らしの皆様
にお見舞いと励ましの言葉
を申し上げます。

過去より人類は疫病や災
害に直面してまいりました。
しかし、常に前を向いて将
来への希望を捨てることな
く、手を取り合い心を寄せ

合って共に歩んでいかねば
なりません。

お大師さまのお言葉の中
に

『禿なる樹 定んで禿なる
に非ず 春に遭うときは
すなわち榮え華咲く』とあ
ります。冬に枯れた樹木も、
いつまでもそのような状態
ではありません。土中の根
がしっかりとしておれば、や
がて暖かい春を迎え、そし
て、そこに必ず美しい花が
咲きほこります。

ひとりひとりの尊きいの
ちを、そして心を枯らせる
ことなく、暖かい春の訪れ
を信じ、共に歩んでまいり
ましょう。



本年には淡路宗務支所主
催による特別伝道が予定さ
れていると聞いております。
状況が許せば、是非、淡路
の地にまいりたいと思っ
ておりますし、又、明年、令
和5年にはお大師さまが御
誕生になられてより1250
年の記念の年を迎えます。
皆様にも高野山に御登山い
ただき、この慶祝行事を共
に御祝いできますことを楽
しみにしております。

檀信徒褒賞受賞者 (敬称略)	
多聞寺 (都志)	檀信徒 堀久雄
岩小坂	岩本 眞明
地藏寺 (鮎原)	檀信徒 山本 彰
威光寺 (榎列)	檀信徒 塩濱 榮助
延命寺 (國衛)	檀信徒 鳥井 盛男
藥王寺 (筒井)	檀信徒 田村 勝美
萬勝寺 (阿万)	檀信徒 木下 敬之
法花寺 (福井)	檀信徒 北川 忠彦
平等寺 (倭文)	檀信徒 松井 睦機
觀音寺 (倭文)	檀信徒 山上 善章
橋山本	橋本 剛旺

宗会議員あいさつ



高野山真言宗宗会議員
福良 慈眼寺
住 職 南岳利英

「コロナ禍の中から」

三年に一度、僧俗とも
に相寄り集い執り行われ
る「淡路檀信徒大会」が、
コロナ禍によりやむなく
中止となりましたことは、
誠に残念なことでありま
す。

お大師さまのことばの
中にも「大切なもの、悟
りの内容は身近にある」
という内容が随所に見つ
けられます。
コロナ禍から私たちは
何を学ぶのか、何を見出
せるのか、それは私たち
の心(仏心)によります。

合掌

檀信徒協議会会長あいさつ



檀信徒協議会会長
永田 秀一

檀信徒の皆さま、如何
お過ごしでしょうか。
日頃は寺檀のため、また、
宗団のため格別のご尽力
を賜わり、甚深の敬意と
感謝を申し上げます。
昨年は、管長さまをお
迎えし、淡路檀信徒大会

が開催される予定であり
ましたが、コロナ禍によ
りやむなく中止となりま
した。我々檀信徒にとり
ましては、待ち望んでい
た大会であり、誠に残念
でなりません。現時点で、
コロナも大分収束してき

ており、このまま収まる
ものと期待しています。
コロナで、我々は色々
な体験をしました。一番
大きな事は、コロナで不
安な気持ちの安らぎをど
こへ求めることが出来る
かであります。私は、そ

新型コロナウイルス
の感染が拡大している
状況を受け、高野山よ
り大僧正葛西光義管長
現下をお招きし檀信徒
参集のもと開催する予
定で準備を進めてまい
りました「第17回淡路
檀信徒大会」について
は、参加者及び関係者
の健康を第一に考慮し
た結果、やむなく中止
させていただきました。
何とぞご理解のほどよ
ろしくお願い申し上げ
ます。

葛西光義管長現下には、
支所報「海響」へ寄稿し
ていただき感謝申し上げ
ます。
さて、コロナ禍により
「人と人の絆」が難しい
状況となっております。
お大師さまのお言葉に
「心・佛・衆生は本性和
同なること空と光のご
とし、無始無終にして断
滅あること無し」とあり
ます。私と他人と佛とは、
本来まじりあっているも
のであって、まるで空と
光との関係のように見分

けることがないものである。
その関係は始めもなく、
終りもなく、とぎれるこ
ともないのである。とい
う意味であります。
お大師さまの教えを不
動の信念として、自分を
大切に、周りの人も大切
に、なるべく無理せず、
できる事を大切にしてい
きましょう。

南無大師遍照金剛
南無大師遍照金剛
南無大師遍照金剛
合掌

支所長あいさつ



淡路宗務支所長
都志 多聞寺
住 職 鈴木瞭導

の安らぎは、心に宗教心
を持つことであると思
います。
お大師さまは、1200
年前にこの世の平和と
生きとし生けるものの幸
せを祈るため、高野山を
開創されました。高野山
真言宗には「行かせいの
ち 大師のみおしえ 今
ここに」というスローガ
ンがあります。仏からも
世のため、人のためにど
う生かすかという教えで
あります。

我々は、今一度、お大
師さまの偉大な足跡を偲
びつつ、その教えの原
点に立ち、仏恩に感謝し、
益々信仰を篤くし、世界
平和に貢献して行かねば
なりません。
私は現在、兵庫県議会
社会福祉議員連盟の会長
をしています。その活動
方針のキヤッチフレーズ
は「ストップ・ザ・無縁
社会」ということです。
我々は、1人では生き
ていくことは出来ません。
常に他の人と協力し、助
け合って行かねばなりま
せん。そして、心に「ゆ
とり」を持つことが必要
であります。

檀信徒の皆さまには、
自分たちには志を同じく
する同士がたくさんおり、
協力し助け合っていくこ
とが出来るという気持ち
を持つていただきたいと
思います。
この不安な世の中を明
るい未来に繋ぐため、お
大師さまの心を再び取り
戻すことが必要です。
檀信徒の皆さまのご健
康とご多幸をお祈り申し
上げ、ご挨拶とさせてい
たきます。

「高野山の法話」

高野山の僧侶の法話を、パソコンやスマートフォンで気軽にご覧になれる「高野山の法話」が視聴できます。配信時間は約10分。毎月1日、15日の隔週で新しい法話がアップされています。

令和4年度 生かせいのち公開講座

教務課 自治布教団

■時間 午後一時三十分より

■会場 洲本市文化体育館 二階会議室

四月二十三日(土)《第三五〇回》

「再会」

灘 長谷寺 長谷川惲也

「心蓮自開——しあわせの扉を開く」

池ノ内 地藏寺 大木 裕文

五月十一日(水)《第三五四回》

「信じる道」

播磨 榮福寺 岡崎 哲秀

「はじめてのこと」

志筑 八幡寺 野崎 康弘

六月十五日(水)《第三五〇回》

「相互供養」

上内膳 千光寺 岡崎 哲英

「うけつぐもの」

下 三寶院 樹下 俊澄

七月二十日(水)《第三五六回》

「報恩」

下 三寶院 樹下 真快

「ひととは何故拝むのかII」

尾崎 長泉寺 竹本 仰雲

九月二十一日(水)《第三五七回》

「報恩」恩を返していきましよう」

南井 藥王寺 堀部 泰博

「和顔愛語」

法華寺 竹原 祐乗

十月十二日(水)《第三五八回》

「山に登りて」

福良 慈眼寺 南岳 真行

「ろうそくの灯り」

寶集 護國寺 三富 良圓

十一月九日(水)《第三五九回》

「まわり弁天を迎えて」

佐野 八海寺 岩坪 泰圓

「みほとけの聲」

中川原 大照寺 本間 克信

(敬称略)

檀信徒褒賞受賞者

(敬称略)

多聞寺 (都志)	檀信徒 堀久雄
岩小坂	岩本 眞明
地藏寺 (鮎原)	檀信徒 山本 彰
威光寺 (榎列)	檀信徒 塩濱 榮助
延命寺 (國衛)	檀信徒 鳥井 盛男
藥王寺 (筒井)	檀信徒 田村 勝美
萬勝寺 (阿万)	檀信徒 木下 敬之
法花寺 (福井)	檀信徒 北川 忠彦
平等寺 (倭文)	檀信徒 松井 睦機
觀音寺 (倭文)	檀信徒 山上 善章
橋山本	橋本 剛旺

仏さまのおはなし

不動明王

池ノ内 地藏寺
住職 大木裕文

落語の枕に仏壇の一説があります。仏壇も色々ありますが、大きなものから小さなもの、高価なものから、安価なものまで、最近はマンション住まいの方も増えてまして家具調の仏壇まで、驚きましたのは仏壇の扉を開けると中からマイナスイオンがフワァーとでてくる、痒む度ごとに健康になる、見たらメイドインイタリアと書いてある、この仏壇イタリアで造られてるんや。でもやっぱり仏壇はイ

タリア製よりもフランス製がええなあ。何でか、心でフランスは、仏とかきますやろ。」信仰の形は、仏壇はもとより、位牌や墓石の形に至るまで近年大きく変わってきたように思えます。お不動様は名の如く動かさる心を持つ仏、人は何かを発心し始めようとする色んな誘惑や無為の心が邪魔をして思った結果が得られない事が多いものです。そんな心を憤怒の形相で睨み付け、手に持つ鎧



「オーン。全ての御仏、諸菩薩の御足を礼拝し奉る。」このご真言は常日頃は勿論のこと、ありとあらゆる法論の際、我々がご本尊様の前で必ずお唱えするものである。御仏や諸菩薩は日夜、私達を苦しめから救うためにお出ましになられ、その御足は疲れ、はたまた埃にまみれていたらしく。そこで我々はその御足の汚れを洗い流し癒す気持ちで礼仏のご真言を唱え、両手で御仏の足先を手に取り額に押戴くのである。この行為を「仏足頂礼」と言い、仏教では最敬礼と心の拠り所を意味する。先日、友人から「高野山足湯隊」の活動の話を聞いた。能登半島地震を皮切りに東日本大震災や熊本地震など、被災地に駆けつけて多くの人たちの足を優しく洗い流し癒しを提供することで現地では大変に喜ばれているそうだった。発足されてから数十年経つというのに初耳だったことを恥ずかしかった。主催者は「目の前の人を仏様だと思いい足を洗うことが大切だ。仏様を礼拝するように、今どのような気持ちで出来るのかを教えて頂くような気持ちでやらなければならぬ。」と言う。まさしく「仏足頂礼」の

礼仏のご真言

志筑 八幡寺
住職 野崎康弘

体現である。この話を聞いた私は早速に自分にとって御仏と同じぐらい大切な家族の足を洗ってみた。湯桶に入浴剤を容れ丁寧に、家内、長男そして次男と順番に足を洗い流したのがある。お互いにとっても恥ずかしいのだが、何とも言い知れぬ温かい気持ちになった。自然と感謝の気持ちも言葉になるのだ。「いつか、ありがとう。」そして照れ笑いが続く。悪事から離れるという意味の「足を洗う」とい

令和4年度 巡回布教日程	
四月二十四日(日)	六教区 観音寺
四月二十五日(月)	五教区 管相寺
四月二十六日(火)	三教区 八淨寺
四月二十七日(水)	八教区 法花寺
四月二十八日(木)	五教区 神泉寺
四月二十九日(金)	四教区 松亀寺
四月三十日(土)	七教区 安楽寺

共鳴

金剛講淡路地方本部教師会会長
江井 神宮寺
住職 本多隼大

「五大に皆響き有り・」お大師さまのお言葉であります。宇宙や森羅万象が響いてお互いが共鳴し合っているのが真言である。真言とは無限のエネルギー・永遠の命でもあります。音や光の波動などや心臓の鼓動や血流や脳波など、貴方自身も響いています。良い響きに出会うと共鳴し良い状態に変化し、不穏な響きではその影響をうけます。お経や真言を誦誦し修行するのは、その響きにより声や意識や肉体が共鳴し究極の境地となるからです。「以心伝心」「馬が合う」「虫の知らせ」とは、迷信的かもしれませんが一日のひと時、御写経をしてみてもいいかがですか。無心で御写経をする時間で養った「心の充実」を活かして、より良い明日を迎えましょう。

御写経のすすめ

一日のひと時、御写経をしてみてもいいかがですか。無心で御写経をする時間で養った「心の充実」を活かして、より良い明日を迎えましょう。

共鳴

枢議参与檀信徒研修会について

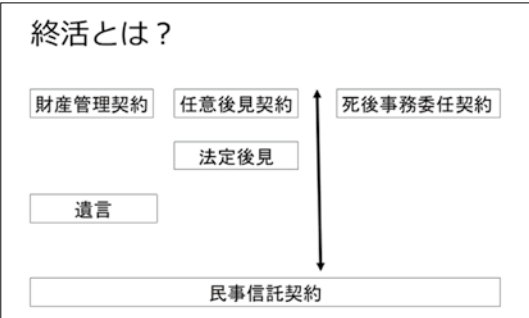
令和4年2月14日(月)開催予定で、本年度高野山真言宗兵庫ブロック枢義・参与・檀信徒研修会を淡路宗務支所担当にて、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場で会場準備をしておりました。しかし、新型コロナウイルスの感染者増により直前になりましたが中止としました。予定しておりました研修テーマは「終活」です。令和に入りコロナ禍の影響もあり私達を取り巻く環境も速いスピードで変わってきています。葬儀・

講演 「終活について」
講師 神戸マリン総合法律事務所 弁護士 西口竜司氏
田村行政書士事務所 田村 実貴雄氏

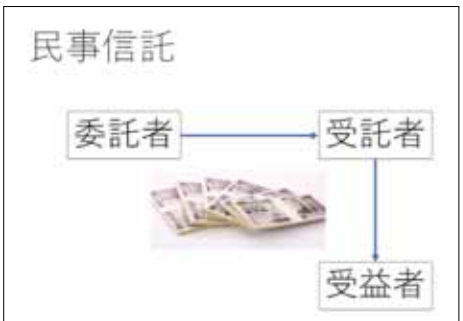
「終活」ってなんですか。

神戸マリン総合法律事務所
弁護士 西口竜司氏

皆さん、はじめまして。神戸市垂水区で弁護士／税理士をしております西口竜司(龍章)と申します。本来であれば、研修会でお会いできる予定だったのですが、新型コロナウイルス感染症の流行のため、お会いすることができませんでした。「終活」のお話にも、新型コロナウイルスと密接に関連した話になります。縁起でもないことを申し上げます。仮に、明日貴方がお亡くなりになられたとして、相続人にな



なものがあると思います。あくまで一例を上げさせて頂きます。生前であれば、後見の問題、民事信託の問題、死後であれば、遺言、死後事務委任の問題等が上げられます。まず、後見といっても、裁判所が関与する法定後見(成年後見、保佐、補助の総称)から個人でお願いする任意後見契約まで色々なものがあります。ざっくりと言えば、もしご自身が認知症になってしまった場合にサポートしてくれる人間を選ぶというものです。認知症になった場合、後見人等が貴方の代わりに銀行預金を管理したりします。次に、民事信託というものがあります。信託銀行がサポートする商事信託とは違うのですが、貴方の財産の一部を委託し、その財産管理をお願いする制度になります。この制度は裁判所が関与しませんが、ご自身の思いを柔軟に叶えることができる制度になります。この制度は、貴方が亡くなった後も効力を持つようにできるもので、例えば、ペットの面倒を見ることをお願いしたりできます。なお、銀行が商品として案内しております遺言信託とは全く別物だということには注意して下さい。その他、生前に考えておかれることとしては、相続税のことがありますね。相続税というのは大変な制度で、財産を得るときに税金を払い、相続をするときにも税金を払



色々な制度を上げさせてきましたが、たくさんあり過ぎて頭が痛いですね。今から寺院と終活のお話をさせて頂きたいと思います。皆さん、専門家に相談するのはどのようなときでしょうか。争いが激しくなったようなときなどと思います。そんなときです。一般的に専門家にご相談されるのは遅れがちです。ところが皆さんの異変に早く気づける方がおられます。それが定期的に皆様の自宅を訪問する僧侶の方々なんです。僧侶の方が、皆さんのちょっとした異変に気づき、早く専門家の元に行くよう促すだけで終活をすることが可能になってきます。よくある例をあげますと、認知症がかなり進行した段階で、遺言書を作成したいというようなことになったりしますが、死後の事務をお願いする制度です。例えば、法事をお願いしておくような場合です。私も専門家として相談させて頂いた場合、自分が亡くなった後、お墓をちゃんと守ってくれるのか心配だという声を聞きます。このような場合に備えて作成する契約と考えて下さい。また、死後のことをお願いする制度として、民事信託もあります。色んな制度を上げさせてきましたが、たくさんあり過ぎて頭が痛いですね。今から寺院と終活のお話をさせて頂きたいと思います。皆さん、専門家に相談するのはどのようなときでしょうか。争いが激しくなったようなときなどと思います。そんなときです。一般的に専門家にご相談されるのは遅れがちです。ところが皆さんの異変に早く気づける方がおられます。それが定期的に皆様の自宅を訪問する僧侶の方々なんです。僧侶の方が、皆さんのちょっとした異変に気づき、早く専門家の元に行くよう促すだけで終活をすることが可能になってきます。よくある例をあげますと、認知症がかなり進行した段階で、遺言書を作成したいというようなことになったりしますが、死後の事務をお願いする制度です。例えば、法事をお願いしておくような場合です。私も専門家として相談させて頂いた場合、自分が亡くなった後、お墓をちゃんと守ってくれるのか心配だという声を聞きます。このような場合に備えて作成する契約と考えて下さい。また、死後のことをお願いする制度として、民事信託もあります。

高野山真言宗金剛講淡路地方本部・教師会	
ご詠歌 四季の集い	
春の集い	4月17日(日) 午後7時～9時
場所／護國寺	南あわじ市 賀集へ橋732 講師／賀集 三 富良圓
夏の集い	7月17日(日) 午後7時～9時
場所／生福寺	淡路市 石田770 講師／國 衛 本間敬英
秋の集い	10月17日(月) 午後2時～4時
場所／延命寺	南あわじ市 神代國衛1869-1 講師／ハ 木 稲井良俊
冬の集い	1月17日(火) 午後2時～4時
場所／延長寺	洲本市五色町 點原南谷565 講師／江 井 本多隼大
(敬称略)	

